

瑞穂地区だより

【編集・発行】
瑞穂協議会
妙高市地域共生課
新潟県地域づくりサポートチーム



検討委員会での話し合いの様子



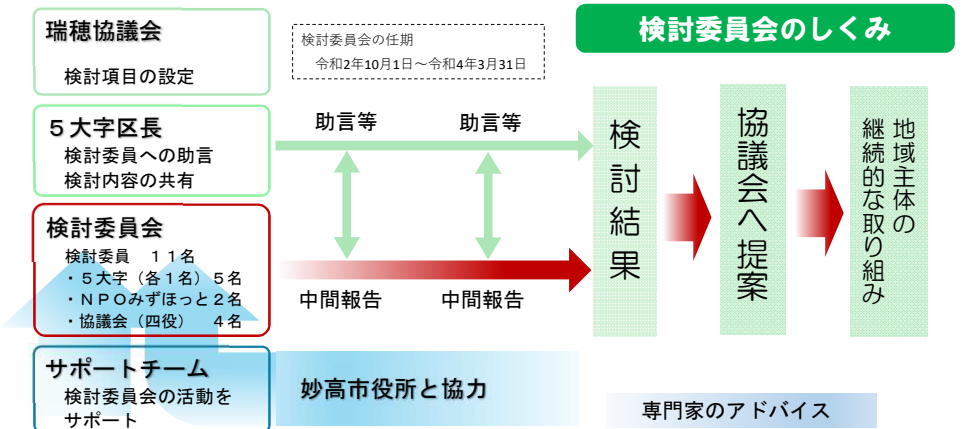
瑞穂地区の将来について検討しています

瑞穂地区では、令和元年度から地区の将来を考えるための話し合いを行っています。昨年度に地域主導で検討委員会を新たに設置しました。「猿橋」「楡島」「東関」「長沢原」「大沢新田」の各区、瑞穂協議会、NPO法人みずほっとから選出された検討委員により話し合いを進め「持続可能な地域をつくるための組織づくり」を検討しています。

検討委員会は「妙高市」及び「新潟県地域づくりサポートチーム」や「地域づくり専門家」と連携して「こうあるべき、こうしたい」という“未来”を描く話し合いを行っています。

平成29年に実施したアンケートの結果から、瑞穂協議会とNPO法人みずほっとを含めた「組織の運営体制」の課題や「若者が地域のことを知らない」「若者の声を聞く必要がある」といった若者の地域への関わり方の課題などが見えました。これらの課題を解決し、いつまでも安心して暮らせる瑞穂地区を目指しています。

この「瑞穂地区だより」では、住民の皆さんに活動について知っていただくために、話し合いの内容などを紹介していきます。



検討委員会の活動内容

瑞穂協議会 検討項目の設定 (諮問)

- ・行事・祭り
- ・共同作業
- ・役員・組織
- ・集会施設の維持管理
- ・会計(大字区費・賦課金)
- ・財産管理
- ・他団体との関係(農家組合、NPO他)
- ・若い世代の役割づくり

令和4年3月頃までに提案



専門家のアドバイス

- ・検討委員会は「こうあるべき、こうしたい」という未来を描くことをしたい
- ・描いた将来が何年後なのか、そこから逆算して具体化するのが良い

検討委員会

任期 令和2年10月1日～令和4年3月31日

- ・協議会からの諮問について検討し、提案書を作成する

新潟県地域づくりサポートチーム

- ・検討委員会の活動を妙高市と協力し側面からサポート

検討委員会

- ・検討委員の**総意**で進める
- ・提案の**実行**は、検討委員会から実行する団体へ引き継ぐなど、**関係する仲間を増やす**ことが望ましい



瑞穂協議会から設定された多岐にわたる項目を話し合います。意見交換を重ねてこそ見えてくる地域の実情や本音…。多種多様な意見が交わされますが、地域の“未来”を描き、検討委員の総意で作成した提案書を瑞穂協議会へ提出します。

提案内容については、地域のみなさんの協力をいただきながら、できるところから進めていくことが必要です。

瑞穂地区が目指す将来像

「自らの運営により、いつまでも持続していける地域」

将来像の実現に向けた検討の柱

①地域づくり組織の運営体制の見直し

- ・瑞穂協議会や5つの大字の役員体制や行事、共同作業の見直しなどを検討

②若い住民の役割づくり

- ・若者と地域との関わりなどを検討

③瑞穂協議会とNPO法人みずほっとの関係

- ・2つの組織の役割分担などを検討



瑞穂協議会へ提案

作成した提案書の素案(行事・祭り)

- 第2回検討委員会 検討項目「行事・祭り」案の例 (第3回検討委員会後継版) 案
1. 初年度は、現職とあり、各大字単位で毎年行う。その際、初年度と連携し、やり方を工夫する。ただし、各大字単位の運営を高めるために、相互に一度は譲渡地区全体で実施することが望ましい。譲渡地区の事業に賛同し、大勢の参加を促す必要がある。なお、若年層、若年層の参加を促すことが望ましい。
 2. 翌年以降は、継承は関係で(古い)継承は関係。継承は難しいと思われる。継承の意向、現在のやり方に賛同する関係者まで、各大字の意向を把握し、譲渡地区全体で実施することが望ましい。なお、川内・楡島、大沢新田、川内(東関、長沢原、東関)は、それぞれ自治体と連携し、協力を進めたい。関係者が増えれば、協力を進めたい。
 3. 行事(古い)継承を含む。継承について、各大字単位の行事は譲渡地区で実施したいと思われる。譲渡地区の行事は譲渡地区全体で実施したい。各大字の意向を把握し、譲渡地区全体で実施することが望ましい。譲渡地区の行事は譲渡地区全体で実施したい。

(検討事例)

検討内容の実現に向けて

検討委員会の任期終了後も協議会への提案内容の実行や、振り返りを行う体制が必要です。地域の連携・集約をできるところから進めていきます。組織体制の見直しのなかで、若者の役割づくりを大切にし、瑞穂地区の未来を描いた提案内容を多様なつながりを持ちながら実行することが必要です。